

第 25 期日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会  
第 10 回議事録

開催日時：2023 年 7 月 23 日（日） 16:00～18:00

場所：オンライン会議（zoom 下記参照）

出席者：小松、西村、神原、新福（記録）、浅野、井上、南、山本、太田、萱

間、真田、多久和、田高、森山、三重野、吉沢、綿貫

欠席者：菱沼、宝金、坂下、坂本（敬称略）

【議題】

（1）総会、幹事会等の報告

小松委員長が今期の動向や 26 期への課題についてまとめて説明した。

（2）公開シンポジウムの振り返り

高度実践看護の実践の中で、診療の補助の拡大が中心の議論となり、今後はさらに、ケアのアドバンス型の議論の発展が必要であることが指摘された。看護師の裁量権の拡大については、日本学術会議で医学や薬学などの専門分野とも連携しながら議論を継続する必要があるため、今期の残りの期間ならびに来期にむけ、井上委員、森山委員を中心に意見の取りまとめを行うこととなった。

（3）-1 地元創成看護班の活動

西村副委員長より、今期はシンポジウム、対談、論文執筆に加え、報告という形で科学的助言の発出の審査を受けていることが報告された。来期に向けては、どの程度地元創成看護が浸透したかの評価を行うこと、日本学術会議の活動を足場にしながら研究活動の推進を行なっていくという方針が示された。

（3）-2 DX班の活動

小松委員長より、DXを実践している若手研究者を協力者として勉強会を継続実施し、その検討に基づき、報告の執筆を行なっていることが報告された。新福幹事より、査読に対する対応と、今後は一般に届きやすい媒体での執筆や学会等のシンポジウムの企画等の提案があった。小松委員長より、来期に向けてDXに留まらない新しい切り口

が必要か、という問いかけがあり、複数の委員より、もう少し大きく看護を捉え直し、他分野とも共同しながら看護学のパラダイムシフトを起こしていく必要性が議論され、来期の冒頭に議論を行うこととなった。

(4) 次期への引継ぎ内容について

上記以外に地元創生看護の英語表記について、高度実践看護のグランドデザインに向けた話し合い、災害看護と地元創成とのつながり、課題を実装に繋げること、看護学と新しい学問との融合、日本看護系学会協議会との連携などの提案があった。

(5) その他

特になし